第6期上下水道事業経営委員会（第2回）の主な質疑

令和7年2月26日（水）15時00分～16時00分

上下水道局2階201会議室

質 疑	答 弁
【令和7年度予算案について】	
A 委員	<p>上下水道局</p> <p>建物の耐震化については、上下水道局本庁舎は耐震性能を満たしている。維持管理部門がある上関庁舎は、耐震補強を過年度に実施し耐震化されている。</p> <p>また、拠点施設である配水池については、主要な配水池から順次耐震化を進めており、県からの受水拠点である中田配水池及び国吉配水池は耐震化工事を終えている。</p> <p>今後、他の配水池についても、耐震化を進めたいと考えている。</p>
B 委員	<p>上下水道局</p> <p>上下水道局は高岡市管工事業協同組合と協定を結んでおり、緊急時にはすぐに始動できる体制を構築している。</p> <p>また、災害の規模に応じて、まずは市内、次は県内、その次は中部地方と範囲を広げながら連携する体制がとられている。</p> <p>能登半島地震においては本体制がうまく機能し、冬場ではあったが、2日後には応援に来ていただくことができた。</p> <p>応援を受けることで、上下水道局の職員が現場対応にあたることができ、給水や避難所対応を機能的に行うことができる。</p>
C 委員	<p>上下水道局</p> <p>能登半島地震からの復旧について、水道事業は、令和6年度中に復旧が完了している。</p> <p>下水道事業は、高岡のロードマップにて示されているが、令和8年度までの完了を目標としている。</p>

【能登半島地震からの復旧・復興の現状について】			
A 委員	漏水の早期検知には、漏水常時監視システムが重要であるのか。もしくは、スマートメーターの導入拡大が漏水の早期発見につながるのか。	上下 水道局	能登半島地震以前より、漏水を効率的に発見するため、センサーによる漏水監視システムを導入している。水道のバルブにセンサーを取り付けることで、漏水音を検知すると、職員のスマートフォンに情報が送られるというものである。 このセンサーは、災害時の輸送等において重要な役割を果たす道路を横断する水道管に設置しており、徐々に設置数を増やしている。 また、スマートメーターは、屋内側の漏水発見に有効であると感じているが、高岡市全域での設置までは至らないため、一部の地域から徐々に設置している。
	埼玉県道路陥没事故を受けての緊急調査については、今後調査範囲を拡大する予定はあるのか。	上下 水道局	下水道管路の調査については、国の指針に則り腐食するおそれの大きい箇所を5年ごとに計画的に点検している。 今回の道路陥没事故を受け、緊急的に点検を行ったが、降雪の影響により調査が難しい面もあったため、雪解け後に改めて実施する必要があると考えている。 今回の埼玉県での陥没事故は非常に大きな事故であったが、小規模の陥没について全ては避けられないという一面もある。 日頃より、必要に応じボーリングやクラックした箇所の修繕は行っており、常時点検は続けている。
	能登半島地震において、お客様への減免はどのように対応したか。	上下 水道局	一定の地域について、全面的に減免を実施した。 漏水による影響の他、能登半島地震では液状化の影響により掃除に大量の水を使用する事例があったため、その点を意識した対応を行った。
B 委員長	能登半島地震で被害が大きかった地域の復旧・復興にあたり、今後の地震や液状化に備えてどのような技術的な対策を行っているか。	上下 水道局	水道は、管路に耐震管を用いて復旧している。 下水道は、液状化の被害を軽減するため、埋め戻しの土砂に水が抜けやすい材質のものを採用し、仮に地震が起きたとしても被害が軽減できる方法により工事している。
	復旧・復興にあたっては、ボーリング調査の結果に基づき行っているのか。	上下 水道局	復旧・復興においては、様々な工法があるため、ボーリング調査に基づく土質の状況等に合わせた工法により実施している。 耐震化により100%被害がなくなるわけではないが、被害を受けてからのリカバリーは早

			<p>くなると考えている。</p> <p>能登半島地震においては、伏木地区の水道管の耐震化率が高かったため水道は非常に早く復旧できた。今後は、市内全域へどのように広げていくかが耐震化の課題であると考えている。</p> <p>まずは、重要施設に繋がっている基幹管路の耐震化を進める計画である。</p>
	<p>復旧・復興にあたっては、住民に対し丁寧な説明等を行いながら進めていただきたい。</p>	<p>上下 水道局</p>	<p>災害復旧は、地域と連携しながら行っていくものであり、そのように進めていく。また、周辺自治体や過去の事例等も参考にしながら進めていく。</p>